

2017
No.87

[2017年12月~2018年2月号]

青山学院大学

<http://www.aoyama.ac.jp/>



AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



特集

ボランティアセンター活動報告

海外留学

青学から世界へ、留学の夢をサポート

Topics

講演会「くまモンを活用した熊本地震後の熊本県のコミュニケーション戦略」を開催

AGU Lecture

理工学部 電気電子工学科「先端素子材料工学研究室」

理工学部 黄研究室



①公立高校での集合写真(インドネシアプログラム) ②スタディツアーで一本松について語る(陸前高田プログラム) ③中学生への学習支援の様子(塩竈プログラム) ④農業支援。いちごのプランターに入れる土を運んでいる様子(熊本プログラム) ⑤塩釜水産物仲卸市場でのPR動画取材(塩竈プログラム) ⑥高森町草部 下町地区での交流会の集合写真(熊本プログラム)

特集 ボランティアセンター活動報告

ボランティアセンターは2016年10月に青山キャンパスに開設され、2017年4月から本格稼働しました。ボランティアセンターに常駐する専門のコーディネーターも2名体制となり、学生スタッフRooteも多くの新メンバーを迎え所属人数は80名を超えました。また、ボランティア活動の高まりにより青山キャンパスだけでなく、相模原キャンパスにもボランティアセンターを開設する準備が進んでいます。

ボランティア・プロジェクト・サポート制度スタート

ボランティアセンターが新たに始めた事業の一つとしてボランティア・プロジェクト・サポート制度(通称ボラサポ)があります。ボラサポとはセンターのミッションにある、広く「学生・教職員の自発的な社会貢献活動への参画を促進する」ための制度で、本学学生・教職員3名以上が主体となって企画したボランティアプロジェクトを審査し、予算面もしくは運営面でサポートするものです。

2017年6月に第1期の募集を行い、両キャンパスからプロジェクト応募があり、4件の企画が採択されました。また、予算補助以外にも運営・企画

ボラサポ 2017年度第1期採択プロジェクト

三陸港まつり開催支援「ペットボトル灯籠」の作成を通じた地域住民の参加機会の創出

代表 湯浅 拓也 (国際政治経済学専攻 国際政治学専攻 博士後期課程2年)

体育会レスリング部 大島クリーンプロジェクト

代表 難波 陽 (経営学部 経営学科4年)

Samaritans Place 支援プログラム

代表 清水 美奈 (国際政治経済学部 国際経済学科3年)

韓国スタディツアー

代表 大庭 啓太 (地球社会共生学部 地球社会共生学科1年)

総社市で本学学生7名が幼稚園、小・中学校の英語等の授業をサポート

2014年に本学と岡山県総社市は、英語特区等での包括連携協定(教育やまちづくりをはじめとする連携協力)を締結し、ボランティア学生を毎年総社市に派遣しています。今年も、本学学生7名(文学部英米文学科3年山中映実さん、鈴木菜月さん、同1年大出愛理さん、若鍋美咲さん、フランス文学科1年関修平さん、経済学部経済学科2年柳瀬諒さん、法学部法学科2年野口達広さん)が、総社市の英語特区に認定されている幼稚園、小・中学校で、5日間英語等の授業のサポート役として参加し、英語力を駆使しながら現地の子どもたちと交流を深めました。



三木義一学長(左)を表敬訪問する、片岡聡一総社市長(右)と本学学生

ボランティア情報の発信ツールの拡充

ボランティアセンターの公式ウェブサイトを開発する他、SNSを通じた情報発信を行っています。



ボランティアセンター主催で2つのシンポジウムを開催

センターの「開設記念シンポジウム～熊本地震から迎える大学ボランティア活動～」を、熊本地震から1年を経て行った「青学くまもとウィーク」最終日の4月15日(土)に実施。また、開設1周年シンポジウムを11月18日(土)に開催しました。

青山祭で「被災地の今」をVR体験 Rooteと「TOHOKU360」がVR動画を出展

Rooteは、合同会社イースタイムズが運営するニュースサイト「TOHOKU360」と協働し、岩手県陸前高田市の被災地の現状を伝える360度VR動画を制作しました。全6シーンの動画は11月3日(金・祝)から5日(日)に開催された青山祭に出展され、VRで陸前高田市の被災地を巡り、復興の進捗状況を知る現地スタディツアーの模擬体験が行われました。動画は「TOHOKU360」のウェブサイト上でもご覧いただけます。

夏期ボランティア活動報告

陸前高田プログラム

活動期間：2017年8月3日(木)～12日(土)
参加人数：10名

柳田 泰樹さん 教育人間科学部 教育学科2年 東京都立川高等学校出身



「将来の夢」ワークショップ

岩手県陸前高田市で、震災復興のそのさらに先にある地域振興を中心に活動しました。これまでの教育支援、地域支援、福祉支援プロジェクトに加え、今年度はコミュニティ活性支援プロジェクトを始めました。仮設住宅・災害公営住宅にお住まいの方々との「お茶っこ」活動で大学生と話すことを通じ、地域コミュニティの再生・振興を目指す活動です。

陸前高田市の現状を知るきっかけ、東日本大震災について考えるきっかけ、東京で行動するきっかけ、物事にはそれぞれきっかけが大切です。「きっかけ」を与えられるプログラムであり続けること、それがこのプログラムを継続していくために最も大切なことだと思います。次年度はさらに地域振興へとつなげ、コミュニティ活性支援活動をさらに展開していきたいです。

塩竈プログラム

活動期間：2017年8月5日(土)～19日(土)、9月3日(日)
参加人数：43名

渡邊 諒真さん 文学部 比較芸術学科2年 神奈川・私立関東学院高等学校出身



学童保育でのイベント説明の様子

塩竈プログラムは今年で6年目を迎えました。今年度は学童保育の補助、不登校児童・生徒の社会復帰への後押し、中学校での教育支援と、PR動画の制作、今年度から始まった塩竈市内商店の調査、浦戸諸島での地場産業と夏祭りのお手伝いの4プロジェクトについて経済支援を行いました。活動中、現地の方々から多くの感謝の言葉をいただきました。活動前に視察を重ね、要望を聞きながらプログラムを作り上げていきました。

塩竈に少しでも貢献したいという参加者一人一人の気持ちが、プログラムの原動力になっています。本当に必要なことは何かをよく考え、「現地を想う気持ち」が重要だと感じます。今年度の良かった点、悪かった点を振り返り、次年度はさらに良いものを作り上げたいと考えています。

熊本プログラム

活動期間：2017年8月13日(日)～9月2日(土)
参加人数：34名

三浦 万奈さん 総合文化政策学部 総合文化政策学科2年 北海道・私立北星学園女子高等学校出身



中学校で学習支援を行う様子

地震で被害を受けた熊本県南阿蘇村で、農業支援や教育支援活動を行いました。農業支援では、農家を回りビニールハウスの解体や、いちごの苗の植え付け作業などの活動を、教育支援では、中学校での学習支援、また小学校や学童保育、保育園、寺子屋での遊びなどを通じて子どもたちの心のケアを図りました。

ボランティアとして私たち学生は熊本を訪れていますが、活動に専念するだけではなく、現地の方々と積極的に関わっていくことが重要だと考えます。今回、南阿蘇村の方たちと積極的に関わったことで、参加した学生は熊本の魅力を知ることができました。今後も参加した学生一人一人が、現地と密に関わっていけるような活動を企画・運営していきます。

インドネシアプログラム

活動期間：2017年8月12日(土)～21日(月)
参加人数：4名

大森 蘭さん 文学部 英米文学科3年 山梨県立吉田高等学校出身



ジャカルタお掃除クラブと合同で行ったジャカルタ清掃の様子

私たちはインドネシアのジャカルタで、地震対策と日本のクリンリネス(掃除文化)について、小学校・中学校・高校で授業を行い、市内の清掃活動にも参加しました。国でゴミ問題に取り組んでいるジャカルタの方々のニーズに合ったと感じました。国際ボランティアを行う上で一番大切なことは、その国についてよく知ることだと思います。今年の活動を通じインドネシアに関する知識も身に付き、さらに良くなっていくために私たちにできることは何かと、より深く考えられるようになりました。

今後は、知識だけでなく、必要とされる実践的な方法を現地の方々に伝えていきたいです。活動継続のためにも学内での広報活動にも力を入れスタッフを増やし、今年を超える活動を来年は築き上げたいです。

特集 海外留学

青学から世界へ、留学の夢をサポート

本学では学生が籍を置いたまま休学せずに約1年間、海外の大学で学べる在学留学制度をはじめ、さまざまな留学の機会を設けています。ここでは長期留学の制度とともに、協定校留学やインターンシップを経験した学生たちのメッセージをご紹介します。

長期留学

協定校留学(派遣交換留学)

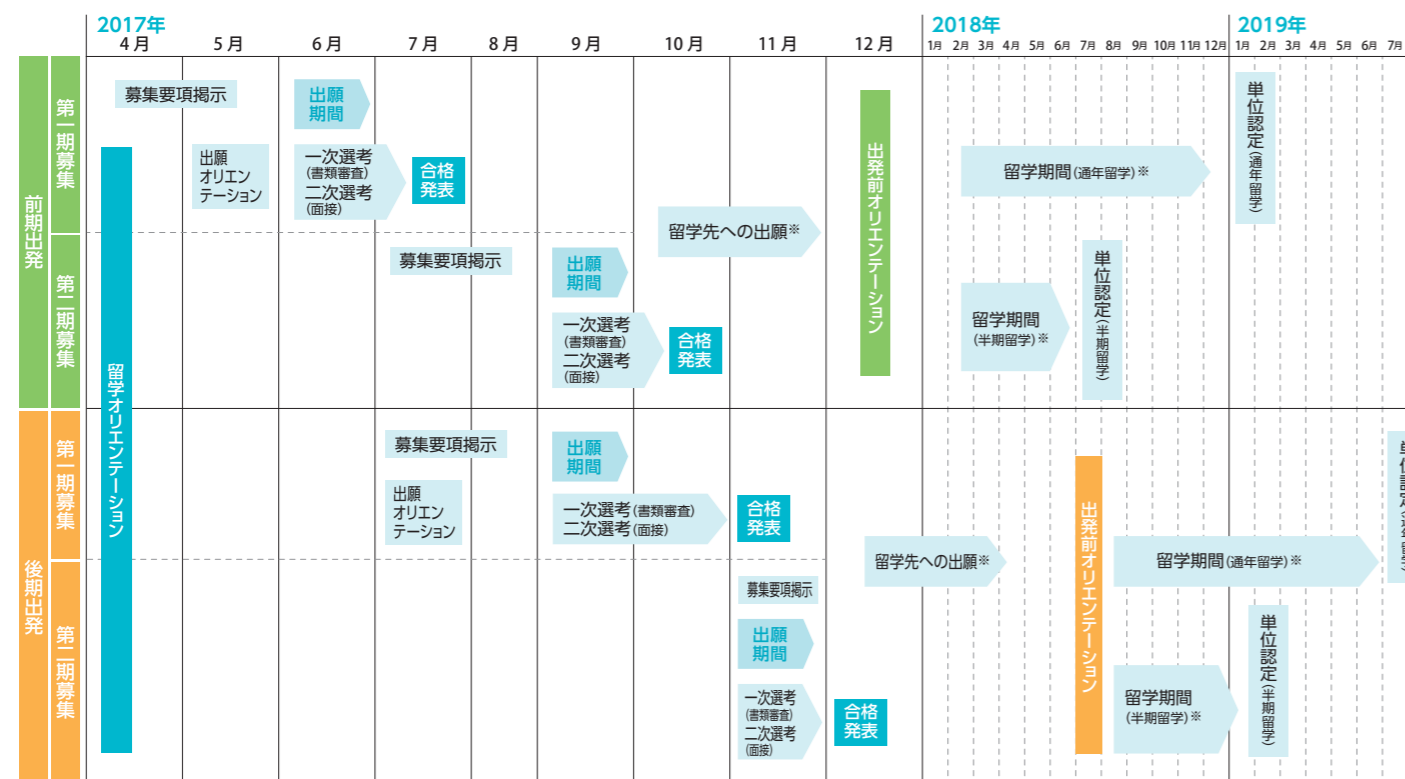
本学と海外の大学との学生相互交換協定に基づき、学生を派遣し合う制度です。出願資格を満たし、学内の書類審査および面接による選抜に合格することが必要で、本学に学費を支払うことで、協定により留学先大学への授業料は免除されます。 ※一部協定校へは私費留学も可能。

認定校留学

学生自身が事前に留学を希望する学位授与権を有する大学または高等教育機関の入学許可を取得した上、本学に認定校留学の申請をし、認められた場合に留学できる制度です。ただし、本学および留学先にも学費を支払う必要があります。

留学準備スケジュール(協定校留学)

留学準備スケジュールの日程は2017年度のものであります。



■ 第一期・第二期募集共通 アジア 韓国・ミャンマー 英語圏 オーストラリア
 ■ 第一期募集のみ ヨーロッパ フランス(Universit  de Franche-Comt ) ■ 第二期募集のみ 英語圏 協定校留学(私費)
 ■ 第一期・第二期募集共通 アジア 中国・台湾・ベトナム・タイ・ブルネイ・マレーシア・モンゴル・カザフスタン 英語圏 カナダ・アメリカ・イギリス
 中南米・ヨーロッパ エクアドル・メキシコ・フランス・スイス・ドイツ・スペイン・ハンガリー・ポーランド・ブルガリア・ウクライナ・ロシア
 フィンランド・イタリア MISEN/ACUCA
 ■ 第二期募集のみ 英語圏 協定校留学(私費)

留学サポート制度

本学では単位認定制度や継続履修制度、給付奨学金制度を設けています。

■ **単位認定制度** 留学先の大学で修得した単位を、留学終了後、本学の単位に振り替える制度です。

■ **継続履修制度(後期出発の場合)** 留学前(前期)に履修登録をした通年科目を、帰国後(後期)に継続して履修することが原則として認められる制度です。

■ **給付奨学金制度** 青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金★や、青山学院国際交流基金奨学金、(独)日本学生支援機構 海外留学支援制度(協定派遣)奨学金などがあります。

★ **青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金**
 海外留学を志す本学学生を対象として、本学と株式会社太平エンジニアリングが合同で学業資金として奨学金を給付することにより、経済的負担の軽減と外国留学の奨励を目的としたもの。(2017年度：実績年額50万～100万円) ※留学形態および所属学部による。
 ※詳細は、国際センター ウェブサイトをご確認ください。 <http://web.iec.aoyama.ac.jp/>

協定校留学 さまざまな出会いや経験で得た、精神力や適応力が大きな財産



アメリカで最も多様な人種が定住する州であるといわれるハワイでなら、多様性に触れて自分の価値観の幅を広げることができると考え、留学を志望しました。留学先では、新大統領が誕生し混乱する現地で、自国の政治への当事者意識の強いアメリカの学生たちの激しい議論に参加し、私も自国の政治に対してより理解を深めなければならないと考えるようになりました。生活面では、文化の違いから自分の常識が通用しないことに戸惑うことも多々

白川 授さん
 国際政治経済学部 国際政治学科4年 静岡県立掛川西高等学校出身

ありましたが、さまざまな出会いや経験を通して適応することができました。英語力の向上だけではなく、困難を乗り越える精神力や、異文化への適応力こそが留学を経て得た大きな財産だと感じています。

留学の準備段階では、出願資格のIELTSのスコア向上を目的としたIELTS対策講座が学内で開講されているのでおすすめです。他にも、国際センター主催のオリエンテーションで留学に対する不安や悩みを解消する機会があるので、興味のある方は心配せずに留学にチャレンジしてほしいです。

白川さんが紹介!

ハワイ・パシフィック大学

学生数：約7,000名 留学生数：約830名

ハワイは日本人が多いイメージですが、キャンパスがあるホノルルのダウンタウンで日本人に会うことはめったにありませんでした。アメリカ本土からの学生が多く英語でコミュニケーションを取るには良い環境です。寮はキャンパスまで徒歩約10分、近隣にスーパーマーケットやチャイナタウンがあるため、とても便利です。



国際色豊かな大学でさまざまな出会いがありました



絶景スポット巡り。ハワイの自然を満喫しました

インターンシップ 多くのことを得た、留学エージェントでのインターンシップ



私は、以前より海外に滞在する経験、そして、実際に“働く”という経験を得たいと考えていたため、1カ月の夏期海外インターンシップへの参加を決めました。初めは、慣れない海外の地で本当に自分が会社の一員として働けるのか不安でしたが、事前研修などで働く上での心得や文化の違いなどを学ぶことができたので、十分にインターンシップに参加する心構えができました。

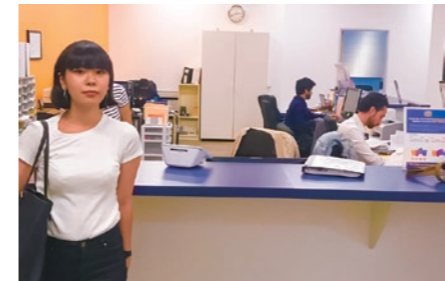
丹治 祥子さん
 文学部 英米文学科2年 茨城県立下館第一高等学校出身

こともあり、私は留学エージェントにてインターンをさせていただきました。インターン期間中は、平日5日間、11時から18時まで勤務していました。業務内容としては、主にデータ整理や会社のフェイスブックページ更新などのオフィスワークを担当し、その他、お客様の見学の同行や、語学学校訪問など、オフィスの外の業務もさせていただきました。現地の学生たちと話す機会もあり、とても刺激になりました。

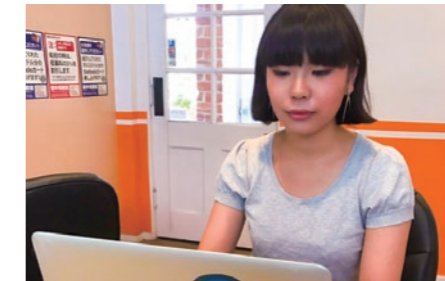
では得られないような経験、そしてスキルを多く得ることができました。今後はこの経験を生かして、さらに成長できればと考えています。

丹治さんの研修先

研修先のLos Angeles Info, Inc.は日本からロサンゼルスに来た方のサポートを行う会社です。学校関連だけでなく、住居や現地での生活についてなど幅広く対応しています。ネット上では、ロサンゼルス の役立つ生活情報発信も行っています。



語学学校訪問



オフィス内業務の様子

特集 地球社会共生学部 海外留学スタート!

地球社会共生学部では、経済成長の中心である東南アジア地域への半期留学が必須です。2年次後期あるいは3年次前期の半期間、学生たちはフィールドスタディーを通し、現地調査を行います。留学を体験し、帰国した学生たちのレポートを紹介します。



多文化理解の視野が広がり、英語力の向上を実感



マレーシアのマラヤ大学には世界中から留学生が来るため、多くの国の友達ができました。寮で留学生たちと話すことで、彼らの考え方や生き方を知り、自分の価値観と共通することもあり、世界をとて近くに感じました。留学中マレーシアの公用語である英語で会話をするにいつも必

平松 賢さん
地球社会共生学部 地球社会共生学科3年 静岡県立静岡高等学校出身

死だったので、英語力は向上したと実感できました。現地ではマレーシアの多文化社会はどのような共生社会なのかをテーマに調べました。歴史的な背景からマレーシアでは主にマレー人、中国人、インド人が「マレーシア人」として一つの同じ国に暮らしてい

ます。インタビューや文献調査を通し、当初感じていた「平和な共生社会」よりも、民族同士がお互いに深く干渉しすぎない絶妙なバランスで成り立っている「妥協の共生社会」という面が見えてきました。

留学中は現地の学生がとても温かく受け入れてくれたので、今度は自分が留学生や外国の方をサポートして恩返しをしたいです。以前から興味があったマレーシアの国教であるイスラム教の社会に身を置いて過ごせたことも、異文化社会の理解の面で貴重な体験でした。留学で培った多文化理解の視野と英語力を生かし、卒業後は国際政治学を学び世界平和についての研究をしたいです。



マレーシア、中国、トルコの友人とパーティーにて



ソマリアの友人と図書館にて



留学で気付いた、チャンスをつかみ、挑戦することの大切さ



元々タイの文化や社会に興味があり、また「タイ・スタディーズ」という留学プログラムは、タイの多面性を学べる授業が多い上、さまざまな国からの交換留学生が集い、国際交流も盛んなため、タマサート大学への留学を決めました。

ギーセン 珠理さん
地球社会共生学部 地球社会共生学科3年 東京・私立朋優学院高等学校出身

びました。また、多様なバックグラウンドを持つ学生と触れ合うことで、自分の視野や世界が広がりました。滞在先のマンションでは、さまざまな国の留学生と、母国料理を紹介し合ったり、休日と一緒に過ごすなど、友達もたくさんでき、語学力向上には良い環境でした。

フィールドスタディートリップでは、中華街を訪れ、タイに暮らす中華系の人々の

歴史や、食文化、街について新しい発見をしたり、観光地として名高い世界自然遺産のカオヤイ国立公園に行って、タイの観光業についても調査しました。

フィールドワークとして、タイと日本の大学生の1カ月の支出調査を行い、その違いや比較結果をまとめました。

今回の留学で、自分からチャンスをつかみ、失敗を恐れず挑戦することの大切さに気付いたことは、大きな収穫です。

また東南アジアに対するイメージが変わり、素晴らしい面を多く知ることができたので、より多くの方に東南アジアへの留学の良さをアピールできればと思いました。そして、留学中に身に付けたことを将来に活かしていきたいです。



バンコクの水上マーケットにて



友人とカヤックなどアクティビティも楽しみました

2017年度 学業成績優秀者表彰

学業成績優秀者表彰は、各学部・研究科に在籍する2年生以上の学生で、前年度において学業成績が優秀と認められた者に対し表彰し、表彰盾および副賞が授与されます。2017年度は、下記の学生が表彰され、7月12日(水)に青山キャンパス本多記念国際会議場にて授与式が行われました。

[2017年度 学業成績優秀者表彰 表彰者一覧] ※敬称略

(学部)	最優秀賞	優秀賞	奨励賞	法学部	理工学部	歳 亦斐	
文学部	佐伯 菜津子 花谷 大河 上等 由貴子 天野 早紀 谷川 恵 鍋島 祐希	伊藤 莉菜 鈴木 周 初山 慎司 岡 みのり	安藤 有香 中村 杏花 長谷川 千夏 齋藤 祭 藤田 智弘 三上 峻 宮本 恵太 木崎 沙織 新井 彩生 中村 有花 小山 明里 渡辺 絵美子 藤井 さやか 鶴田 真由 比野平 智子 長澤 咲耶 田邊 清一 田中 優羽 原山 すみれ	小林 誉 富山 菜月 平野 聡一郎 上野 晴香 大原 由莉香 工藤 光大 徳永 梨花 渡辺 美音 大竹 碧 小橋 なるみ 永井 拓真 米津 友里加	安部 大晟 駒井 雅 李 晋 青木 優津希 寺島 賢人 大場 栄一 小野 光穂 森川 桜子 庄司 伊織 仲宗根 禎人 古田 宗太郎 梶原 千咲 藤井 真之 生田 航輝 菊池 のぞみ	安部 大晟 駒井 雅 李 晋 青木 優津希 寺島 賢人 大場 栄一 小野 光穂 森川 桜子 庄司 伊織 仲宗根 禎人 古田 宗太郎 梶原 千咲 藤井 真之 生田 航輝 菊池 のぞみ	岡田 泰宏 藤間 大順 ZHAO QIANG 国際政治経済学研究所 山中 崇史 中村 篤 阿部 路子 総合文化政策学研究所 衛 秒伶 根木 一子 理工学研究所 和田 拓也 保戸田 澁樹 本多 夏穂 伊藤 碧 中村 裕香 杉山 颯 大山 芽依 柴 和彰 霧田 治朗 坪田 崇
社会学部	倉林 諒 石井 幹大 佐藤 加梨	清水 紗江 牧野 智美 藤田 ジュリアン	前川 陽香 大野 和希 小原 帆夏 篠山 仁志	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
地球社会共生学部	平松 賢 甲斐 麻友香 (以上38名)	藤田 七菜 原 光希 鈴木 瑞樹	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
教育人間科学部	竹内 理緒 木藤 成美 佐藤 香奈恵	小笠原 史乃 長井 美沙 浅野 まどか 羽山 南 石原 桃香 吉野 日南子	折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
経済学部	伊藤 莉菜 鈴木 周 初山 慎司 岡 みのり	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	藤田 智美 藤田 ジュリアン 山岸 未都生 逆井 彩音 朝山 麻衣子 田部 史織 佐藤 七菜 原 光希 鈴木 瑞樹	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
社会学部	大竹 滯海 加藤 真由 中川原 弘恭 望月 爽介	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
国際政治経済学部	邊見 茉奈 岡田 菜央 堀池 秀	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
総合文化政策学部	村石 加帆 西川 ゆきえ 平井 はるな	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
理工学部	上島 翔真 須賀 結奈 藤田 隆佑 小林 大紀 竹邑 涼 山崎 禎晃	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
法学部	一ノ渡 美帆 丸山 彩季 山本 楓 谷川 碧	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
地球社会共生学部	伊藤 莉菜 鈴木 周 初山 慎司 岡 みのり	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
社会学部	大竹 滯海 加藤 真由 中川原 弘恭 望月 爽介	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
国際政治経済学部	邊見 茉奈 岡田 菜央 堀池 秀	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
総合文化政策学部	村石 加帆 西川 ゆきえ 平井 はるな	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
理工学部	上島 翔真 須賀 結奈 藤田 隆佑 小林 大紀 竹邑 涼 山崎 禎晃	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
法学部	一ノ渡 美帆 丸山 彩季 山本 楓 谷川 碧	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
地球社会共生学部	伊藤 莉菜 鈴木 周 初山 慎司 岡 みのり	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
社会学部	大竹 滯海 加藤 真由 中川原 弘恭 望月 爽介	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
国際政治経済学部	邊見 茉奈 岡田 菜央 堀池 秀	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
総合文化政策学部	村石 加帆 西川 ゆきえ 平井 はるな	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
理工学部	上島 翔真 須賀 結奈 藤田 隆佑 小林 大紀 竹邑 涼 山崎 禎晃	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
法学部	一ノ渡 美帆 丸山 彩季 山本 楓 谷川 碧	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
地球社会共生学部	伊藤 莉菜 鈴木 周 初山 慎司 岡 みのり	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
社会学部	大竹 滯海 加藤 真由 中川原 弘恭 望月 爽介	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
国際政治経済学部	邊見 茉奈 岡田 菜央 堀池 秀	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
総合文化政策学部	村石 加帆 西川 ゆきえ 平井 はるな	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
理工学部	上島 翔真 須賀 結奈 藤田 隆佑 小林 大紀 竹邑 涼 山崎 禎晃	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
法学部	一ノ渡 美帆 丸山 彩季 山本 楓 谷川 碧	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
地球社会共生学部	伊藤 莉菜 鈴木 周 初山 慎司 岡 みのり	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗 米田 恵実 折本 実津季 楠瀬 陽己 横山 紗也	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	大原 菜々美 式 麻彩 藤田 マリアン 二口 凜太 蔡 漢卿 白石 成美 郭 又銘 齊藤 有李 荒川 光介 堀 友里恵 犬飼 なお美 島田 佳奈	坪田 崇	
社会学部	大竹 滯海 加藤 真由 中川原 弘恭 望月 爽介	川崎 郁哉 林 シンヤ 内藤 伊玖真 直井 慧 石田 美咲来 伊藤 一那 堀之内 祐佳 生駒 祐衣	成毛 雄大 細川 のぞみ 林 佳苗				

講演会「くまモンを活用した熊本地震後の熊本県のコミュニケーション戦略」を開催 ―総合文化政策学部総合文化政策学会主催

熊本地震から1年以上が経過し、復興のシンボルとなったくまモン。同県に経済的価値ばかりではなく、文化的・象徴的価値をももたらした



講演者の成尾熊本県東京事務所次長

のではないのでしょうか。メディア文化、都市・国際文化、アート・デザイン分野の研究を行う総合文化政策学会では、くまモンの育ての親の一人である成尾雅貴熊本県東京事務所次長による講演会を開催しました。

くまモンはどのように誕生したのでしょうか。実は、九州新幹線全線開業に向けた県民運動「くまもとサプライズ」の「おまけ」として生まれたのです。成尾次長からはくまモンの大阪での下積み時代の苦労話や、日本国内ばかりではなく海外にも活動の範囲が広がっていること、地震後は被災した県民の代表として、全国各地にお礼行脚を続けていること等が紹介されました。最後はくまモン本人が登場する「サプライズ」付きの楽しい講演会でした。



2017年7月19日(水) 青山キャンパス17号館 本多記念国際会議場にて (総合文化政策学部教授 川又 啓子 記)

「第69回日米学生会議」に文学部の藤本 ミケイラ エミさんが参加

2017年8月6日(日)から28日(月)まで、第69回日米学生会議(JASC)が開催されました。JASCは1934年に発足した日本初の国際的な学生交流団体で、第1回の会議は同年に青山学院で行われました。参加した本学学生のメッセージを紹介します。



藤本 ミケイラ エミさん
文学部 フランス文学科3年
群馬県立太田女子高等学校出身

右が藤本さん

衛隊基地で研修を行い、8月の本会議では、アメリカから学生を迎え、京都、愛媛、三重、東京の開催地を巡り、7つの分科会に分かれての議論や、社会の第一線で活躍される方の講演やパネルディスカッション、日本の文化体験を行いました。

全く異なるバックグラウンドを持つ日米の学生と、約3週間衣食住を共にし、英語を使って真剣に話し合えた貴重な経験は、私自身の価値観や考え方の根幹を見つめ直すきっかけになりました。JASCで出会えた最高の仲間、新たな価値観に触れ驚いた日々は、これからの自分の未来へつながるかけがえのない財産となりました。



本多記念国際会議場にて開催されたファイナルフォーラム

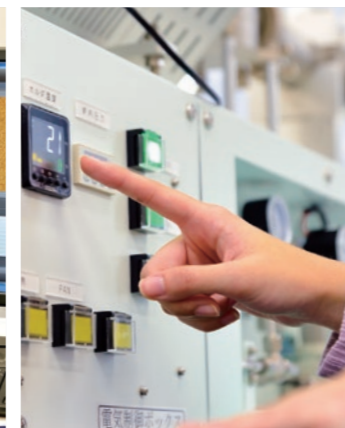
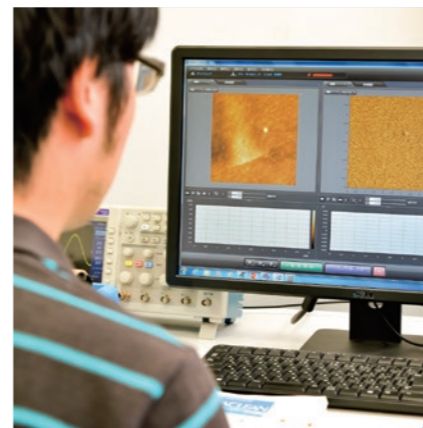
青山キャンパスに「AGU Book Café」がオープン

2017年9月14日(木)、青山キャンパス7号館1階に、AGU Book Café(ななCafé)がオープンしました。堀田宣彌理事長、三木義一学長、外岡尚美副学長、坂本由喜子校友会大学部会長、学生を代表して伊藤大晃さん(経済学部 現代経済デザイン学科4年)によるテープカットが行われ、関係者による内覧の後、開店しました。

AGU Book Caféは、大学にふさわしい知的な場所、大学のイメージアップにつながるおしゃれな書店、また学生にとって憩いの場になることをコンセプトに造られました。書籍コーナーは学術関連や洋書など、約2万5千冊の書籍が揃っています。カフェコーナーでは、フェアトレードの有機豆を使用したコーヒー類、自家製デザート、サンドイッチ

などの軽食も販売。本学学生はじめファンが販売再開を待ちわびていた「青学ソフト」が同カフェで復活しました。店内には自由に閲覧できる洋書やタブレットもあり、快適な時間を過ごすことができます。

営業時間は、青山学院購買会のウェブサイトをご覧ください。ぜひ皆さまご利用ください。



AGU Lecture 086



先端素子材料 工学研究室

黄 晋二

理工学部 電気電子工学科准教授

本研究室では、グラフェンという炭素原子で構成されたシート状の材料を扱っています。グラフェンは薄くて電気をよく通し透明で軽く、生体親和性が高いという特色があります。先日、このグラフェンを用いて透明なアンテナが作れることを発表しましたが、研究室の大きな目標は、グラフェンを電極に用いて体の中で動かす酵素バイオ電池を作ることです。これが実現すれば、ペースメーカーの電池交換のための手術も不要になり、身体の負担も軽減できます。またさまざまなセンサーを体内に取り込むなどのIoT※にも対応できます。そのため、電気電子工学科でありながら、他学科の研究室との共同研究も進め化学やバイオも扱い、さまざまな分野を融合した研究を行っています。

私が学生を指導する際、「ビジョン」「アクション」「コミュニケーション」の3点をキーワードに伝えています。「ビジョン」はしっかり目標を立てて研究することを指します。研究に追われていると、目先の細かい問題に右往左往してしまいがちなので、何のためにこの研究をしているのかというビジョンを掲げ、そこに向かって進むということです。「アクション」は、自主的に動く。指示を待つのではなく、自ら計画して実施するという行動力を身に付けてもらい

たいと思っています。そして「コミュニケーション」は、「報告・連絡・相談」をしっかりすること、他の研究室との共同研究などもスケジュール管理を行い、相手としっかりコミュニケーションを取ることです。また、研究の成果はプレゼンテーションや論文という形で、科学技術の言葉を用いて正確に伝えられるようになってもらいたいと考えています。

青学生は研究能力だけでなく、コミュニケーション能力やバイタリティもあり、明るく元気な学生が多いと感じます。熱心に研究に取り組むだけでなく、面白いアイデアだと思ったことに本気でチャレンジし、大きな力を発揮できるのは、青学生の特徴かもしれません。

今後、電気電子工学に関連する世界の市場はさらに活発になっていきます。例えばフランスでは2040年までに、ガソリン車を廃止し、電気自動車の普及を目指しています。このように今後、電気自動車が主流の時代になるため、自動車業界は電子系の回路やモーター、電池を研究してきた人たちが活躍する業界になるでしょう。医療や介護福祉分野などにも、テクノロジーは不可欠です。これからこそ電気電子の時代だということを、多くの方に知っていただきたいですね。



黄研究室学生
原 菜摘さん
理工学部
電気電子工学科4年
東京・私立瀧友学園
女子高等学校出身

専門分野を絞れず、どの研究室に進むか悩んでいたとき、黄研究室の学生発表を聞く機会がありました。そのテーマが電気電子工学に限らず多岐にわたっていたことから、黄先生の研究室を選びました。

一から研究を進めるので、最初は分からないことばかりで大変です。そんなときは自分で調べたり、先生や周囲に聞かなければ前に進みません。その半面、興味を持ったことについて学ぶ楽しさも、この研究室で知りました。先輩方も優しく、バーベキューをしたり、他大学の研究室との合宿でサッカー大会を開催したりと、思いきり楽しめるイベントもあります。

私は現在、電圧を制御するポテンショスタットという装置を製作しています。卒業後は大学院への進学を予定しており、このポテンショスタットにグラフェン電極を用いた、新しいバイオ系の研究に関わることが今から楽しみです。

この研究室の主題はグラフェンですが、テーマは広いので、それだけ研究の選択肢が多いのも魅力です。研究内容を絞れていない人や、いろいろなことに挑戦したいと思う人にぜひおすすめしたいです。

青山学院大学後援会報告

決算・予算報告

本学後援会は、本学の教育・研究に必要な事業を援助するために設立された支援団体です。在学生の保証人とその有志が会員となり、会員から拠出される会費(在学生保証人分は学費に含まれています)をもって、課外活動や奨学金、傷害保険への全学生加入といった学生支援およびペアレンツウィークエンド(地区父母懇談会)の開催など、多岐にわたる活動を行っています。毎年度の事業内容は年1回開催の評議員会(総会)で審議・決定されます。このたび、2016年度決算と2017年度予算が承認されましたので、ここにご報告いたします。

2016年度は、学友会活動補助として体育会強化指定部(硬式野球部、ラグビー部、バスケットボール部男子、バレーボール部女子、陸上競技部(長距離ブロック))を中心に、日頃の成果を発揮した複数部においても活動費の一部補助として支援しました。2017年度においては長年の懸案であった体育会洋弓部、理工弓道部の活動場所となる弓道場建設の準備や相模原キャンパスにおける課外活動の支援、ならびに文化連合会各部への支援等、文武両道に向けた一層の環境の充実に取り組んでいきます。また青山キャンパスでは建物の老朽化に加え、慢性的なトイレ不足等により女子学生からニーズがあったパウダールーム、および各種専門書・雑誌コーナーが揃うAGU Book Caféを設置しました。さらに、身障者用のトイレの整備など学内の教育環境整備を進める予定です。

100円朝食実施報告

本学後援会主催事業の一つとして、一昨年からスタートした100円朝食は、好評につき今年も青山・相模原各キャンパスの学生食堂にて提供されました。実施期間は2017年4月10日(月)～28日(金)の15日間と、5月8日(月)～26日(金)の15日間の、午前8時から9時まででした。メニューは日替わりで米飯食とパン食が交互に提供され、学生から感謝と継続希望のコメントが寄せられました。今後も学生のニーズに応え、かつ健康面でもサポートしていきたいと思っております。

準備された朝食は両キャンパス合わせて期間中合計7,950食で、実際の提供食数は7,030食(提供率：88.4%)でした。後援会は1食当たり200円の補助を行いました。

アンケートによると、一人暮らしの学生が半数を超え、高い利用結果となりました。学生からは「低価格な上に栄養バランスが考えられており、非常に嬉しい企画です。100円朝食を提供してくださるおかげで、朝食を毎日食べるという習慣が身に付きました」「できることならもっと長期的にやってほしいです」といった感想が寄せられました。



月曜日の朝食メニュー

相模原祭実行委員会 相模原市より2016年度「地域活動・市民活動ボランティア認定証」を贈呈

第14回相模原祭実行委員会(2016年度委員長 上月貴裕さん 社会情報学部 社会情報学科3年、同広報局長 城秀一さん 理工学部 情報テクノロジー学科3年)が、市民桜まつり(4月)、地域清掃クリーンウォーク(5月)、橋本七夕まつり(8月)等、日頃の相模原市地域活動への自主的な参加・貢献を評価され、同市より「地域活動・市民活動ボランティア認定証」が贈呈されました。

これは、同市が進めるボランティア認定制度に基づき、一定以上の地域貢献活動を自主的に行った学生(学生グループ)に、大学推薦のもと贈られるものです。これを機会に今後評価される学生が増え、地域貢献活動の励みになることと期待しています。



2017年3月7日(火)贈呈式にて(相模原市けやき会館) 相模原祭実行委員会 上月さん(右)、城さん(左)、本学事務職員平井昇

青山学院大学教育振興資金

保証人の皆さまのご支援を教育研究環境の改善につなげます。

日頃より青山学院大学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年4月、6月に募集いたしました2017年度の「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございます。これもひとえに同振興資金募集の趣旨をご理解いただいた上でのご支援の賜物と存じます。

2017年度は、前年度に引き続き、教育研究環境の充実に向け、2号館ラーニングcommons設置整備、図書館データベース充実、AED機器更新など、学習環境および生活環境の一層の改善に取り組んでおります。

この場をお借りして御礼申し上げますとともに、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 403名 (ご芳名掲載者 159名 匿名者 244名)

ご芳名掲載対象期間 2017年4月1日から9月5日までのご寄付者

あ	相川 淳 様	大野 隆行 様	小長谷 丈晴 様	た	滝嶋 直樹 様	堀江 陽司 様
	青木 寛 様	大野 芳正 様	小林 岳人 様		田澤 嘉章 様	ま 牧野 利幸 様
	秋山 孝司 様	大場 規之 様	小林 俊雄 様		田島 祐子 様	正木 勇三 様
	浅賀 英一 様	岡田 伊知郎 様	小林 利春 様		立松 みどり 様	増岡 俊典 様
	姉帯 次男 様	緒方 良一 様	小松 威久男 様		田中 進 様	松澤 佳彦 様
	荒井 大輔 様	岡地 昭昌 様	近藤 充典 様		田宮 勝美 様	松本 繁秀 様
	有馬 茂人 様	奥本 松樹 様	齋藤 敦 様	て	寺奥 知子 様	松森 孝志 様
い	飯田 和信 様	長田 宏樹 様	齋藤 毅 様	な	内藤 敏信 様	み 溝口 洋治 様
	五十嵐 けい子 様	小澤 修太郎 様	坂上 靖 様		中嶋 孝仁 様	皆川 一男 様
	石井 里実 様	小野 将 様	坂本 学 様		中瀬 康彦 様	峰 秀樹 様
	石井 崇司 様	小野寺 ゆか子 様	佐柄 則雄 様		中田 尚志 様	籾口 英信 様
	石井 浩一 様	片野 真一 様	佐藤 武志 様		中野 雅裕 様	も 持田 浩司 様
	石井 正美 様	勝井 達謙 様	佐藤 輝彦 様		中場 直美 様	本井 浩二 様
	石川 武人 様	加藤 浩次 様	佐藤 紀之 様		長嶺 聡 様	物永 一成 様
	石川 朋幸 様	金田 慎司 様	佐藤 寧 様		並木 光二郎 様	門田 隆太郎 様
	石原 幸一 様	河田 寛 様	佐藤 洋子 様		灘波 猛 様	や 安田 晴美 様
	井島 宏 様	菊池 昭人 様	佐藤 吉博 様	に	新美 喜啓 様	弥永 浩 様
	伊藤 和宏 様	菊池 友子 様	佐野 哲也 様		西岡 秀司 様	山口 知子 様
	伊藤 忍 様	木埜山 浩 様	佐野 直子 様		西端 淳 様	山崎 雅仁 様
	井上 律子 様	木全 祐介 様	渋谷 洋樹 様	し	西村 晃 様	山下 昌人 様
	井原 伸 様	木村 純一 様	島村 正子 様		野田 豊国 様	山中 将光 様
	今井 稔 様	木元 正幸 様	清水 健次 様	は	橋本 美幸 様	山本 英樹 様
	岩淵 勇 様	木本 行園 様	清水 健徳 様		濱田 雅晴 様	ゆよ 行好 潤介 様
う	植田 泰生 様	清浦 昌秀 様	白川 信弘 様		濱野 多喜生 様	横地 眞 様
	植田 祥夫 様	轡田 敏秀 様	杉浦 恵子 様	す	林 和彦 様	吉田 博史 様
	上原 幹生 様	熊田 光男 様	杉本 良雄 様		林 宏示 様	吉野 篤人 様
	白井 満 様	倉田 隆 様	鈴木 敦 様		林 湛 様	吉野 文唯 様
	内山 博 様	小泉 昌昭 様	鈴木 甚一 様	ふ	原田 緑 様	吉村 和博 様
	浦上 博史 様	小坂 修司 様	鈴木 基行 様		福田 澄幸 様	米山 浩英 様
	江口 政治 様	小式沢 太 様	須田 超一 様		伏見 尚美 様	わ 脇山 博隆 様
え	大西 千里 様	小島 高志 様	関 章人 様	ほ	星野 法昭 様	渡邊 久美 様
お	大貫 順一 様	小塚 智広 様	瀬戸谷 芳治 様		星野 仁 様	(五十音順)

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、庶務部経理課までお知らせください。次回掲載させていただきます)。

問い合わせ先 庶務部経理課 E-mail : agu_supporters@aoyamagakuin.jp



「AOYAMA VISION & 青山学院応援プロジェクト」のご案内

青山学院は2024年に迎える創立150周年に向けてAOYAMA VISION募金を推進しています。その一環として、箱根駅伝をはじめ学生スポーツ全般を支援する「AOYAMA VISION&青山学院応援プロジェクト」を立ち上げ、お電話一本で簡単にご寄付ができるシステムを用意しております。

箱根駅伝に出場する選手たちの健闘ぶりを沿道やテレビで応援しながら、お気軽にお電話ください。皆さまのご支援をお願いいたします。

電話番号

0120-386-111 (フリーダイヤル) 24時間受付

開設期間

2018年1月1日(月・祝)6:00~1月15日(月)23:59

寄付方法

- ①固定電話、携帯電話、スマートフォンから0120-386-111に電話をする。
- ②音声ガイダンスに従って、1口1,000円の寄付口数を入力する。
(例えば、寄付金額が5,000円なら「5」、10,000円なら「10」、「99口」まで入力可能)
- ③クレジットカード番号と有効期限を入力する。
- ④ご寄付の決済完了。



資料請求
問い合わせ先

青山学院エバーグリーン募金推進本部(大学5号館1階)
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL: 0120-900-420(フリーアクセス) FAX: 03-3409-3890
E-mail: bokin@aoyamagakuin.jp
<http://www.aoyamagakuin.jp/support/index.html>

インターネットからのご寄付も可能です。

青山学院 募金

検索



Club & Circle 37 青山学院大学ライフセービングクラブ愛好会

「人、社会の役に立つ」といった達成感があります。

ライフセービングクラブ愛好会は現在、男女合わせて22名のメンバーで活動をしています。夏期のシーズン中は海水浴場で監視活動を行い、オフシーズンは救命技術の修得、体力の向上を目的に海やプールでトレーニングをしています。夏の約1カ月間、メンバーは担当の海岸で仲間たちと監視活動を行います。海水浴場では他大学や社会人のライフセーバーとも共に活動をするので、多くの方と交流があります。シーズン中だけでなく一年中、他大学と交流があり合同合宿などの活動もしています。

「命を守る」ことを目的とするライフセービングは、監視活動だけではなく競技もあり、大会にも参加しています。今年6月に千葉県九十九里浜の本須賀海岸で開催された「第30回全日本ライフセービング種目別選手権大会」では、メンバーの白鳥紗貴(教育人間科学部 教育学科4年)が女子のボードレースで2位に入賞するなど実績も出しています。

夏を無事故で終えることができたとき、「人、社会の役に立つ」といった達成感があります。海を楽しみながら、ライフセーバーとして私たちと活動しませんか。

(代表: 法学部 法学科2年 佐藤 淳平 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

- バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きを**してください。



●2017年11月30日発行●